

「キンモクセイの二度咲き現象 (1)」

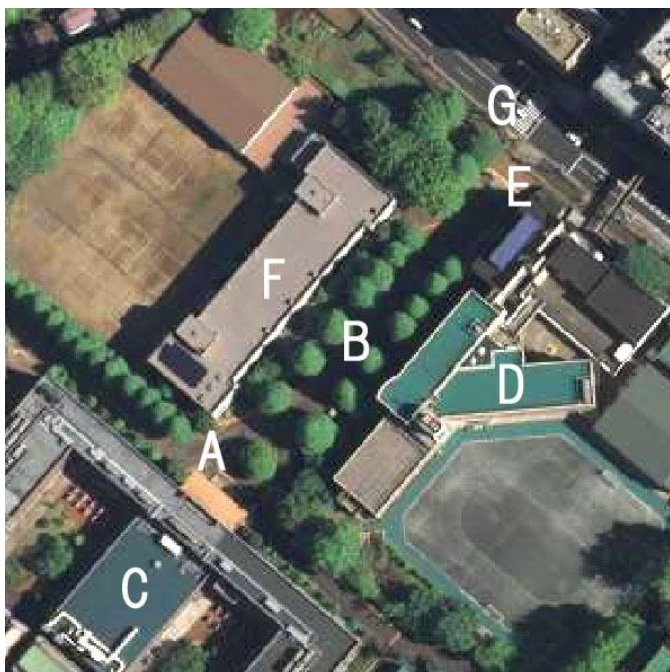
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(1) 友人からのメール

9月26日に友人の大学の先生からメールがあった。

お茶大のキンモクセイは、今どんな感じでしょうか。今年、あちこちのキンモクセイの花のつきがあまりよくないような気がします。

このメールにある「お茶大のキンモクセイ」というのは、東門(正門)を入ったところにあるイチョウ並木の突き当たり(講堂の前)にある、かなり大きな樹(個体)のことである。



「お茶の水女子大学イチョウ並木付近の航空写真」

(2009年撮影 国土地理院提供)

A; キンモクセイ B; イチョウ並木 C; 大学講堂
D; 附属小学校 E; 東門 F; 附属高校 G; 春日通り

キンモクセイの周囲(大学講堂前)はロータリーになっていて、大学を代表する美しい景観を創り出している。このキンモクセイは、毎年9月下旬から10月上旬にかけて、大量の花を咲かせる。樹木全体がミカンの樹に見えるほどだ。その香りは小学校の校舎内でも感じられ、「アア、秋が来たな・・・」と最初に感じさせるのだ。しかし、氏のメール通り、今年は花のつきが悪かった。そのことは、同僚の理科の教員も気付いていた。

(2) 確かに花の勢いがなかったキンモクセイ

私は前述のメールに、すぐにこんな返信をした。

キンモクセイは一応咲いていますが、確かに勢いがありません。実はキンモクセイは、イチョウと同じで雄株と雌株があり、日本のものは、ほぼ100%雄株です。従って実はなりません。今年のように、天候不順で、花着きが悪い年は、一旦散ったあと、再度満開になる「二度咲き」という現象が見られることがあります。私はお茶小に勤務して31年間にそういうことが過去2回ありました。



「9月下旬のお茶大キンモクセイ」 花のつきが悪い

私は「勘」で、「二度咲き」を予測していた。8月～9月の天候が不順で、花は咲いてもつきが悪い・・・そういう年は「二度咲き」という現象が見られることが、過去にもあったからである。

(3) 雄株しかないキンモクセイ

キンモクセイ(金木犀) *Osmanthus fragrans* var. *aurantiacus* は、モクセイ科、オリーブ連 *Oleeae*⁽¹⁾ に属する。キンモクセイの変種(var. = ヴァリエーション)である。中国南部が原産と言われ、江戸時代に日本に輸入されて広まったらしい。

秋にたくさんの花をつけ、強い芳香を放つが、日本にあるものはほぼ100%が「雄株」である。従って街中に咲いているのはすべて「雄花」である。あれだけたくさんの花が咲くのに、結実を一度も見ることがないのは、その為である。

⁽¹⁾ 「連」は植物の「科」(または「亜科」と「属」の間の分類階級。語尾に-aeまたは-eaeがつくのが普通。動物では「族」の分類階級名をあてる。